

タウンミーティング2019 辰口会場

2019.4.25（木） 19：30～20：26

辰口福祉会館 交流ホール

○ 参加者 市民 約54名

○ タウンミーティング議事録

【市長開会あいさつ】

日中のお疲れのところ、ご参加いただきありがとうございます。

今日のタウンミーティングのテーマは、2019年度の予算に関しまして皆様方に紹介をさせて頂き、いろんなご意見・ご提言をいただければと思っている。今日は辰口地区にお住まいの方が多いと思うので、辰口地区に関わることを重点的にお話しさせていただきたい。

【市長 市政方針・主要施策説明】

- (1) タウンミーティング開催状況と施策への反映状況
- (2) 人口変動
- (3) 2019年度予算
- (4) 主要事業の概要

※ 説明内容については、4月11日に寺井会場で開催したタウンミーティングの議事録をご参照ください。

【意見交換】

1. 児童館について

(市民)

- タウンミーティングは市民目線で、市民にとってありがたく、高く評価できる取り組みだ。長く続けて欲しい。
- 児童館について、昨年の町の定期総会で、市議会議員から辰口中央児童館の建設が最後になると聞いたが、国造児童館、宮竹児童館があり、いずれもコミュニティーセンターを利用して老朽化している。辰口中央児童館は素晴らしい施設だと思う。放課後児童クラブ併設も県内では珍しいやり方だと思う。素晴らしいと思う。国造と宮竹は、狭い部屋に子供たちがいっぱいいるわけで、そこには先端大の外国の子ども達もいた。辰口児童館が新設の児童館の最後だという方針なのか。さきほどの人口の話も聞いたが、移住定住で子どもの数を増やしていく観点から、宮竹も国造も放課後児童クラブの子どもの数が増えていく可能性は十分あると思う。それに対応する施設、耐震化の問題などもあるので、これ以上新設の児童館を造らないという固定的な方針

ではなく、状況に応じて考えていくという柔軟な考え方で見直して欲しい。

(市長)

- 状況に応じて考えていく。問題は財源であり、考えていかなければならないのは、児童館だけの問題ではなく、学校、スポーツ施設、保育園が古くなっている。市内にある公共施設全てを対象にして、どれをどういう順序で直し、整備していかなければならないかを考えながら、児童館のことも考えていきたい。

2. 防犯カメラ設置補助について

(市民)

- 町会の総会で、町に防犯カメラを設置したらどうかという意見があった。去年、市立病院、市役所、小中学校に設置されたが、安全安心のまちづくりのために必要だと思う。100万円の助成が予算化されていると聞いたが、町会で設置した場合の映像の管理、チェックのノウハウなど、助成について詳しく知りたい。

(市長)

- 防犯カメラはいろんなタイプがある。常時、画像をテレビに映し出しているということになるとずっとどなたかが見ていなければならない。これでは大変なので、チップ式で、1週間くらいのデータを上書きしていくタイプで、何か事件があった時にそれを取り出して確認して、何が起こったかを見つけるというものをお勧めしている。予算額は100万円で、最高20万円まで助成できる。皆様方からご要望があれば、順次受け付けられるように、予算の拡大をしていくことも考えている。ぜひ利用してもらいたい。

3. 移動サポートについて

(市民)

- 去年の2月に、のみバスでお出掛け、帰りも安心ということで、シニア定期とタクシーの初乗り割引券のセットを出したと新聞に載った。去年はテスト期間だったということだったが、今年はどうなったのか。

(市長)

- 今、利用者数の実績を持っていないが、予想より少なかった。今年は、制度を見直した。これまでは、1回の乗車で初乗り分のチケット1枚しか使えなかったが、今年は一回の乗車につき乗車券を複数枚使えるような制度にした。もう一度今年使ってみて頂いて、やはり利用者数が少なければ、さらに皆様方に使っていただけるようなことを考え直したいと考えている。なくなったわけではない。

4.AED 設置補助について

(市民)

- AED について、町で集会場に設置したらどうかと言う話がある。今年の3月にAEDを購入する場合に市から補助が出ると聞いていた。それが、今年の3月で終わると聞いた。今後はどうなるのか。

(市長)

- 一通り充足したという認識があった。

(市民)

- 各町会からの要望が少なく、3月までだと聞いた。

(市長)

- 調べます。

※ 閉会后、危機管理課職員から、2019年度から能美市自主防災組織整備事業の中で助成できるようになったことを説明した。

5.シティプロモーションについて

(市民)

- これまでの数多くの要望に適切に対応して頂いたことにお礼申し上げたい。小松市に住んでいる姉が、能美市はいいなと言っている。シティプロモーションがいい。ケーブルテレビで能美市のことを観ていたら、元気が出てきたと言っていた。ふるさとに歌ができる、キャッチコピーができる等、うれしいものであり、これはすごいなと思っている。タウンミーティングにも参加させてもらっている。

【市長閉会あいさつ】

- シティプロモーションについて補足します。

シティプロモーションというのは、能美市の魅力を発信していくことであります。テレビ、新聞に取り上げてもらうことが一番効果があり、私自らもできるだけ取り上げてもらえるように、いろんな工夫をしている。多くの方に応援をして頂きたいという思いがあって、観光大使、特使を今まで10人だったものを、35人に増やした。能美市の会は関東にしかなかったが、関西、それから東海にも能美市の会を創っていただいた。多くの皆様方に応援を頂いている。

公共サイン整備事業については、市内には約2,500余りのサインがあり、だいぶ傷んでいたり、JRの駅がまだ寺井駅となっている看板が多い。これを順次変えていきたいと考えている。この

2,500 を一気に変えると莫大な費用がかかる。そこで今年度 1 年かけて、市内にどんな看板がどんな 状態でどこにあるのかということを引きちんと把握して、来年度以降直していきたいと考えている。

オリジナルナンバープレートというのは、原動機付き自転車に公式キャラクターを入れたナンバープレートをつくって、皆さんに使っていただくというものです。

ふるさと学び塾事業については、これまで広報のみをとおして 74 の町会、町内会長さんにそれぞれの町の魅力を発信して頂いた。そんな場所を市民の皆様といっしょに巡る、訪ねるというイベントです。能美市には有名な観光地がある。それ以外にも皆様方から紹介して頂いたところを 巡って、能美市の魅力を再認識してもらおうということを考えている。

ご当地ポスト設置事業では、市内にある 10 の郵便局のポストの上に九谷焼のモニュメントをつけて、能美市の郵便局は他とは違うということを PR していく。全国の郵便局を巡るマニアの方がいるそうで、そんな方にも能美市の郵便局は他と違うんだということをPRしたいと考えてる。

最後に、これらの事業をすすめていくためには我々行政だけではなしえない。市民、地域、団体の皆様の力が必要である。市民の皆様にも応援団となっていただき、お一人お一人が能美市は住みやすい、いいところだと自慢してもらえる、誇りに思ってもらえる、それをふるさと愛と言っているが、それを醸成することこそが、我々が目指すことだと思っている。今後も、皆様方に自慢してもらえる、好きになってもらえるように、私が先頭になって一生懸命頑張っていく。能美市の応援団になっていただきたい。今日はどうもありがとうございました。